



Peace Now! 2021

NEWS No. 13

2021.09.27.

【開催報告】

Peace Now! Hiroshima 2021

概要

日程：2021年9月2日(木)10:00～4日(土)17:00

場所：オンライン会議システムZoom

参加者

岩手大(1)、東京大(1)、名城大(1)、立命館(1)、岡山大(3)、山口大(1)、島根大(2)、愛媛大(2)、徳島大(2)、福市大(1)、高知県公立(1)、九州大(1)、熊本大(1)、東京BK(1)、中四BK(2)、現地実行委員(11)、連合会・ブロック(10)

計15会員42名(運営含む)



セミナー獲得目標

1. ヒロシマの過去を追体験して先人の想いをくみ取り、 自分に何ができるかを考えていく

- ✓ オンラインでも資料館見学やフィールドワークを通してヒロシマについて学びます。
- ✓ 被爆者講話や手記、碑巡りを通して当時の人々の生活や想いに目を向けます。

2. 対話によって得た多様な価値観を踏まえて、 目指したい日常を思い描く

- ✓ 平和活動を行っている方々などへのインタビューを通して様々な価値観に触れ、自らの平和や目指したい日常についての考えを深めていきます。

3. これまでの経験から培われた自らの平和観を基に、 平和の大切さを広げていく

- ✓ 他社の価値観に触れることで、自身の考えの幅を広げていきます。
- ✓ 平和学習を進めてきた人に実際に伝えてみることで、今後周りに伝えていくうえでのきっかけとしていきます。

01 まるで現地で見学しているかのような臨場感！

【企画1】資料館見学

事前に実行委員が撮影した館内の動画を通して、広島平和記念資料館をオンライン上で見学しました。ただ動画を見るだけではなく、館内のそれぞれの展示について実行委員が自らの言葉で解説することで、**まるで現地で見学しているかのような感覚でとても深く学ぶことができました！**

「戦死された方々がいるから今の私たちがいる」ということを第六感まで使って感じることができました◎



資料館の雰囲気までも意識したビデオから悲しみや辛さを感じ、自分ごととして考えたいと心の底から感じた(九州大3年)

02 「私には時間がない」 「微力だけど無力じゃない」

【企画2-a】被爆者講話

広島県被爆体験伝承者である榎原泰一さんをお招きしました。榎原さんは被爆者の岡田恵美子さんの体験をもとに、「核兵器が1発でもある世界では平和にはならない。」と、被爆者と共に核なき世界を目指して小さなことからでもできることを取り組んでいこうと語っていただきました。最後には、「私たちは微力だけど無力じゃない。」とメッセージを頂きました。まずどんなことから始めますか？

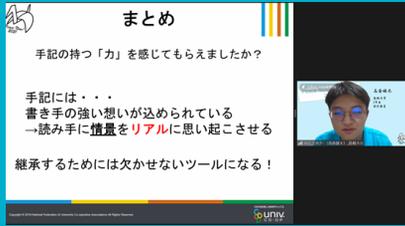


誰も予想できない出来事により、突然大切な人を失う絶望感や、「おかえり」と言えることの幸せを感じました。(名城大3年)

03 手記から当時の情景 をリアルに想起する

【企画2-b】手記

当時の人々が自分の体験などを自分で書き記したものととして「手記」を読んで、「当時の様子をカラーのイメージとして持つ」ことができました。私たちが被爆体験を語り継ぐ世代として、当時のことを追体験することができるツールとして様々な人々の体験やその中の想いを見て感じることの重要性に気づきました◎



伝承とは違う、体験者自身の魂も読みとれるような気がしてこれからも手記を自分で探して読んでいきたいと思いました。(山口大2年)

04 碑に刻まれた文字 から感じ、心に刻む

【企画3-a】碑めぐり

様々な慰霊碑や被爆建物等をオンライン上で動画を通して巡り、それぞれの碑や建物について実行委員の説明を通して過去の惨状とそこで亡くなってしまった人が多くいることを学びました。また、「それぞれの碑や建物を残そうと取り組んできた人々の想いや背景についても考えるきっかけ」になりました。



墓石や犠牲となった方の名前が刻まれた慰霊碑は見るだけでも悲惨だということや当時のことが想像できるけれど、背景を知ることにより理解が深まりました。(愛媛大1年)

05 様々な場所「で」 過去を追体験する

【企画3-b】VRフィールドワーク

8人の実行委員がそれぞれ広島の街にある被爆建物や戦争に関係のある施設について自分の言葉で参加者に継承し、実行委員・参加者みんなで自分の考えを深めていくことにより、違う視点から原爆・戦争・平和について考えるきっかけになりました。それぞれの場所での学びを通して過去を追体験し、ヒロシマについて考えを深めることができました。

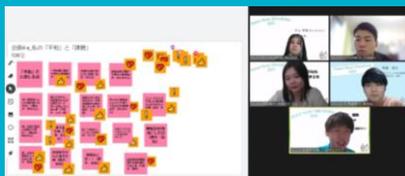


加害の側面から目を背けていたと気がつきました。班の人と自分の地域の戦争加担の面について考え、意見や情報を交換したのも学びになりました。(岩手大2年)

06 「現在」の社会や身近な生活に目を向ける

【企画4-a】私の「平和」と「課題」

身の回りの日常の中で幸せを感じる瞬間や問題だと感じる瞬間について話し合うことで、「身近なところに平野や課題がたくさんあることに気づきました。」特に、新型コロナウイルスの影響を社会や身近な生活を通して考えることで、身近な平和について考え話し合うきっかけにすることができました◎



他者の平和と課題とも合わせて実感し合うことで、日常の中にある平和は当たり前ではないこと、課題はコロナに限らず様々な面であるということを実感することが出来た。(福工大2年)

07 「IN PUT」から「OUT PUT」へ

【企画4-b】ぴーすインタビュー

1日目に被爆体験伝承講話をしてくださった檜原さんにこれまでの様々な平和活動やその中で大切にしてきたことなどをインタビュー形式で伺っていただきました。

平和の取り組みを行っていく中で「被爆者に寄り添い、被爆者の想いに共感する行動」と「OUT PUT」を大切にして取り組んでいくことの大切さに気付くことができました◎



伝承にも色々な形があり、自分1人ではなく各地には同じような思いで活動に取り組んでいる人もいるからそういう方たちと協力していくことが今後に繋がるということ。(岡山大1年)

08 目指したい未来を見据えて今から動こう

【企画4-c】「理想の未来」について考えよう

これまでに学んだ平和観を踏まえて「どんな考えを新たに持ったのか」を交流して視野を広げたいうえで、自分なりの「理想の未来」について考え、交流しました。

理想の未来というゴールを考えることで今からどんなことに取り組んでいけるかということについて考えるきっかけになりました◎

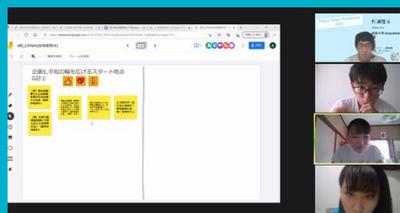


今回の企画を通して明確に目標を決めて、それを実現するためにどのようなことに取り組むべきかを考えて行動するべきだと考えを改めました。(熊本大1年)

09 私にとっての平和とは？これからどう伝える？

【企画5】平和の輪を広げるスタート地点

3日間の様々な学びを通して、「未来につないでいくことの大切さ」と「どのようにつないでいけるのかということ」についてみんなで考えました。すぐにできることだけでなく継続的に取り組んでいけることなど様々な視点で考えることができました◎ 実際に取り組んでいく中で今回交流した仲間にもぜひ相談や報告をしてみてくださいね！



私は、「知る」ことを大切に行動します。理由としては、平和や戦争について考えるきっかけとなるからです。(徳島大2年)

+A 私がつなぐ、あなたとつなぐ、対話でつなぐ未来へのバトン

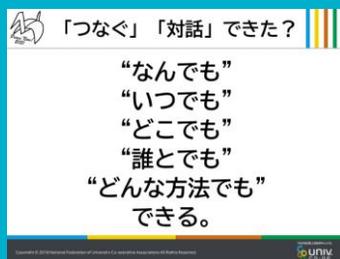
企画局長：とむからのメッセージ

Peace Now! Hiroshimaに参加してくださった皆さん、改めてありがとうございました。3日間を通して深めた学び、ほかの人たちに継承する準備は進んでいますか？皆さんの知識と想いによって築かれた平和の輪が、今後の皆さんの活躍によってさらに大きくなることを確信しています。これからも理想の平和の実現のため、共に頑張っていきましょう！

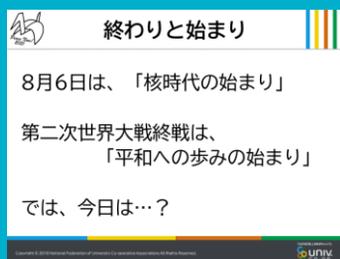


実行委員長：こじぴーからのメッセージ

Peace Now! Hiroshimaとしては2年連続オンライン開催となりましたが、皆様のご理解とご協力を頂いて充実した3日間のセミナーとなりました、ありがとうございました。3日間で学び交流したことを、「対話」を通して「つないで」いくことを意識しながら、周りの仲間にならぬ考え話し合い行動していきましょう！そして、まずは小さな一歩からでも踏み出して未来へのバトンパスに駆け出しましょう！



オンライン開催で不安な点があったが、逆に、話し合いがしやすいなどのオンラインならではの利点があったと思う。(立命館1年)



過去を知ることばかりに考えが及びがちだったけれど、これらにつなげていくために未来を考えることも大切なんだと実感しました。(愛媛大1年)